

日本とアジアの経済		教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択 必修科目	科目ナンバリング	23100101

1. 授業のねらい・概要

本講義では、日々変貌を遂げる国際経済の中でもとりわけ変化が大きいアジア諸国と日本との貿易、国際金融等を中心とした経済動向を取り上げる。これによって、日本とアジア諸国がともに発展することの重要性を学習する。経済協力関係はもとより、生産性や直接投資に関する基礎理論の修得もねらいとしている。

2. 授業の進め方

基礎理論を重視し、日々の動向について理論的に考察することを重視する。そのため、経済専門紙はもとより経済関連のタイムリーな論文等についても取り上げ、解説していく。とりわけ国際金融、国際貿易関係については重視したい。

授業における発言を求めるとともに、意見交換は時間の許す限り取り上げる。

3. 授業計画

1. イントロダクション(授業のねらいと進め方について)	9. アジアにおけるフラグメンテーション
2. アジアの経済発展と経済動向	10. 米国の金融政策がもたらす影響
3. アジアの通貨危機と日本経済	11. 米国の貿易政策が日本とアジアにもたらす影響
4. 日本経済と中国経済	12. 中国の経済動向と日本・アジア経済
5. 日本経済と新興国経済（東南アジア、インド等）	13. アジアから見た自由貿易体制の今後
6. アジアにおけるグローバル・インバランス問題①	14. 地域貿易協定と体制と日本経済
7. アジアにおけるグローバル・インバランス問題②	15. 日本の国内問題とアジア経済（雇用、支援問題等）
8. アジアに見る国際分業と貿易	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容については授業の進捗内容に応じて適宜、授業において伝える。こうした予習・復習に必要な時間は、概ね2時間程度は必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個人的に公表する。学期中の試験、レポート等については、解説とともに返却したい。宿題については、授業冒頭で解説する。質問を募るミニッツ・ペーパーも適宜準備する。

6. 授業における学修の到達目標

日本経済はもとより、アジア経済、ひいては国際経済の動向について受講者自ら論じられる力の習得を到達目標とする。アジアを中心とした国際金融、経済協力関係において活動できる基礎力の修得を目指す。

7. 成績評価の方法・基準

授業における積極的な発言・課題提出（10%）、レポート（20%）、期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は、特に限定しない。参考文献は、藤田昌久・若杉隆平[編著]（2011）『グローバル化と国際経済戦略』（日本評論社、4600円+税）。授業において適宜、必要な論文、資料、データ等を配布する。

9. 受講上の留意事項

1年次科目「グローバル化と国際社会」も併せて履修することが望ましい。また2年次における「アジア地域ビジネス論」にもつながる科目と言えよう。